

氏 名：宮崎 竜乃介

派遣元：静岡県

派遣期間：R2.4.1～R3.3.31

所 属：総括担当

私は総括担当として、法令審査、所管する法令に関するマスコミや地方公共団体からの問合せへの対応、他省庁や他部局からの施策・予算等に係る照会の局内各課への割振りや局内における方針調整等、幅広く政府の防災政策に関する仕事を行いました。

令和2年7月豪雨では、新型コロナウイルス感染症の影響下で発生した災害に対し、被災者の生活と生業の再建に向け、緊急に対応すべき施策をとりまとめた対策パッケージの作成に携わりました。政府の対応方針を早急に示すため、限られた時間の中で、被災者のニーズや地域ごとの特徴を踏まえつつ、各省庁の施策を取りまとめ、官邸等の各方面と調整しながら形にする作業は、総合調整の役割を持つ内閣府だからこそできた経験でした。

研修を通じて得た経験や人脈を今後の業務に活かしていきたいと思います。

氏 名：稲森 隆太郎

派遣元：NEXCO 東日本

派遣期間：R2.4.1～R3.3.31

所 属：総括担当

私は、広報・広聴担当として、主に大臣記者会見のサポートや記者公表資料等の情報提供、HP や SNS の運用などの業務に携わらせていただきました。中でも、令和2年7月の豪雨によって、連日のように非常災対策本部が開かれる中、報道・会見対応や新聞広告の作成等を通して、国の一員として業務に携わらせていただいたことは非常に貴重な経験になったとともに、共に業務を行う国家公務員の方々の熱意・偉大さを日々痛感いたしました。

所属先に戻っても、内閣府防災で培った経験を糧に、今後、頻発・激甚化する各種災害に対して、重要な交通インフラとなる高速道路の維持・管理に尽力してまいりたいと思います。

氏 名：上阪 勇輔

派遣元：愛知県

派遣期間：R2.4.1～R3.3.31

所 属：総括担当

国が動く最前線において国会対応業務に携わることには、派遣職員の中でも稀有な例であり、貴重な経験だったと感じています。ハードな日々でしたが、地方では絶対に経験することのできない濃い1年となりました。

また、業務の処理スピードも大きく異なっており、研修当初は目まぐるしい勢いで動く仕事についていけず、目の前で何が起きているかを整理するだけで手一杯でしたが、研修を終える今となってはこのスピードが標準となり、自ら業務を処理していることに驚いています。

この経験と感覚を持ち帰り、県の防災行政及び国と地方の連携強化に貢献できるよう精進してまいります。一年間大変お世話になりました。

氏 名：山本 翔太郎

派遣元：愛知県 名古屋市消防局

派遣期間：R2.4.1～R3.3.31

所 属：災害緊急事態対処担当

内閣府防災では、公・民間問わず、全国各地からの出向者と共に仕事をする中で、「防災」という一つのテーマを軸に様々な視点からの知見を得ることができました。

平時には、「南海トラフ地震や首都直下地震における応急対策活動に関する具体的な計画」に係る業務を主な担務とし、他室・他機関との調整も行いながら「実効性」を意識した見直しを行い、発災時には、被災現地の政府災害対策室にて執務したり、総理や大臣の現地視察に携わったりと、出向元には絶対に経験することのない機会を沢山いただきました。

「コロナ禍」という様々な場面で、例年とは異なった環境下での研修となりましたが、私にとって非常に記憶に残る一年となりました。

氏 名：青柳 治郎

派遣元：東京消防庁

派遣期間：H31.4.1～R3.3.31

所 属：災害緊急事態対処担当

防災の奥深さを学び、大規模災害発生時の国の対応スピード、そして徹底した被災者目線での対応について、常に先にとプッシュ型で進めていくということの大切さを感じ、今までは消防という組織の中で防災の一部分しか見えていなかったということを感じました。

消防として有事の際には災害対応に全力を尽くしますが、減災、縮災の観点からすると、平時において、特に避難行動や避難所運営の面において、もっとできることがあるのではないか、地域と行政(都と市区町村)の繋ぎ役を担い、地域防災力を向上させることができるのではと思いました。

自分一人では微力過ぎて、具体的に何ができるかは見当もつきませんが、親元に帰り、更に勉強し、できることをコツコツとやっていこうと思います。

氏 名：西田 裕

派遣元：ソフトバンク(株)

派遣期間：H31.4.1～R3.3.31

所 属：災害緊急事態対処担当

内閣府調査チームの一員としての派遣や、大臣視察随行人員として、被災現場を訪れる機会を与えていただき、マスコミ報道では知ることができない現場の状況、問題点などを知ることができ、災害対応が広範囲に渡ることを実感致しました。

次々と生じる様々な課題に対応する職員の皆様の真摯な姿勢を実感致しました。

氏 名：臼井 智規

派遣元：東京電力(株)

派遣期間：H30.7.1～R2.10.31

所 属：災害緊急事態対処担当

災害緊急事態対処室において、災害発生時の国や地方自治体の応急対応の知識を得られ、この上なく貴重な体験ができたと感じています。

特に、先遣チームの一員として、令和元年台風15号で千葉県災害対策本部へ派遣された際には、風の被害に加えて、長期に及ぶ停電で通信障害や上下水道、ごみ焼却など他の社会インフラにも影響が及ぶ事態となりました。電気事業に携わる身としては電気の供給ができないことでこれほど社会に影響を与えるものかと再認識をするとともに、これまで以上に停電時間が短縮されるよう、供給システムの強化、停電解消業務の向上の必要性を改めて考えられました。

2年あまりの業務・研修を通じて得られた経験、そしていろいろな省庁・機関、企業の人と知り合えたことを、今後の会社生活での大きな財産にしたいと思います。

氏 名：木藤 陽介

派遣元：中部電力(株)

派遣期間：H30.4.1～R2.7.30

所 属：地方・訓練担当

私は、地方・訓練担当にて「防災の日」総合防災訓練や緊急災害現地対策本部運営訓練等の企画・運営を担当させて頂きました。また、北海道胆振東部地震での現地派遣や、令和2年7月豪雨の総理視察の随行人などの災害対応も経験させて頂きました。そういった中で、特に印象深い業務としては、台風15号・19号検証レポートの長期停電部分の取りまとめであります。本業務を通じ、我々電力会社が担う使命の大きさを痛感したと同時に、派遣元の防災力の更なる向上が重要であるという思いを強くいたしました。派遣元に戻ってからは、こちらでの経験を活かし、業務に励んでいきたいと思っております。2年4カ月間に亘り、貴重な経験をさせて頂き、ありがとうございました。

氏 名：川中 将史

派遣元：熊本県

派遣期間：R2.4.1～R2.3.31

所 属：地方・訓練担当

私は地方・訓練担当で主に国・地方の職員を対象とした研修の企画・運営を担当しました。コロナ禍により年度当初から「対面」での研修実施が困難であったため、「オンライン研修」へ移行する大きな転換点となり、試行錯誤しながら取り組んできました。

また、令和2年7月豪雨では被災地へ派遣され、国の調査チームの一員と被災県の職員の2つの立場から、被災市町村・避難所の現状や派遣元の災害対応、国・関係機関との連携等について俯瞰的にみる貴重な機会になりました。OJT 研修を通じて他の自治体や公共機関の方とも交流を深めることができ、この人脈は今後の大きな財産になると確信しています。本研修を通じて学んだ視点や思考、内閣府での経験や知識等を活かして、熊本県の防災業務に取り組んで参ります。

氏 名：佐藤 拓磨

派遣元：神奈川県 相模原市

派遣期間：R2.4.1～R3.3.31

所 属：地方・訓練担当

地方・訓練担当として主に大規模災害時の政府の対応に関する訓練の企画、運営に携わりました。訓練を実施するためには、様々な計画やマニュアルを理解したうえで多くの関係者との綿密な調整が必要であり、とても難しい業務ですが、その分やりがいを感じる事ができました。特に9月1日に実施した政府の総合防災訓練は、総理をはじめ全閣僚を対象とした訓練で、細部の調整などに苦労しましたが、これ以上ない貴重な経験をする事ができました。

今年度は新型コロナウイルスの影響がありましたが、各訓練において内容を工夫することで無事に訓練を実施する事ができました。この研修で得た知識と経験を今後の派遣元での業務に活かしていきたいと思ひます。

氏 名：大塚 健太

派遣元：群馬県

派遣期間：R2.4.1～R3.3.31

所 属：調査・企画担当

私は、調査・企画担当において、主に避難情報の制度的検討に関する業務に携わりました。

近年頻発化する豪雨災害により、世間からの関心も高く、議論している内容が国会やニュース等で取り上げられる度に影響力の大きな仕事をしていると実感しました。避難情報の改善については、国民の命に関わる課題であり、内閣府防災内や検討会の委員の皆様と真剣に議論を重ね、対応の方向性をとりまとめる事ができました。その議論に一から携われたことは、派遣元では出来ない貴重な経験であり、様々な方の違った視点の意見や考え方を学ぶ事ができました。

内閣府で得たこれらの経験や知識、研修を通じて築けた人脈など、群馬県に戻ってからも様々な形で活かしていきたいと思ひます。

氏 名：阿部 幸平

派遣元：大分県

派遣期間：R2.4.1～R3.3.31

所 属：調査・企画担当

私は、調査・企画担当で、各火山地域の火山防災体制の充実・強化に向けて、会議・研修の開催、火山災害対応経験に関する映像作成等の業務を行いました。

火山災害の課題は、風水害や地震と異なり、噴火を経験したことがある行政職員が少なく、イメージを共有するのが難しいことです。

火山災害は、噴火ごとに現象や規模が変わること、長期化する場合があること、広域にわたり影響を及ぼすこと等の特徴をもっています。

業務を通じて、様々な関係者が、噴火前、噴火時、噴火後の防災体制について、不断の見直しを行い、実行力を高めていくことが重要であると学びました。

この経験を活かして、大分県民のいのちを守る防災政策に取り組んでまいります。

氏 名：貴志 友一

派遣元：和歌山県

派遣期間：R2.4.1～R3.3.31

所 属：調査・企画担当

防災に関する業務に従事するのは初めての経験でした。これまで、特段防災に関する行政の動きを考えたことはありませんでしたが、研修を通して国民の命を守るための大切な業務だと認識を改めました。一口に防災といってもその業務は多岐にわたるため、国での業務は、県に比べて3倍のスピードで過ぎていくようでした。毎日すべきことが押し寄せてくるため、それらに対応するには事務能力はもちろんですが、やはりお互い顔の見える関係を構築し、円滑に業務を進めることが重要だと感じました。防災に関して素人でしたので、そこでノッキングを起こしてしまわないよう、早目に人に聞くこと。これが、私がこの研修で学んだもっとも重要なことでした。

氏 名：若松 祐介

派遣元：鹿児島県

派遣期間：R2.4.1～R3.3.31

所 属：調査・企画担当

私は調査・企画担当において、主に地震対策の検討に携わりました。主な業務は検討会の運営、会議資料作成、有識者・関係省庁との調整でした。地震は専門用語が多く、打合せ等大変苦労しましたが、地震・津波災害から命を守るための検討という非常に重要な業務のため、常に緊張感を持ち、またやりがいをもって仕事に取り組みました。

また、令和2年7月豪雨の際は熊本県への現地派遣も経験しました。被災自治体のニーズを受け、関係省庁と連携し対応するそのスピード感、調整方法等、大変勉強になりました。

内閣府で1年間働けたことは私にとって大きな財産となりましたし、ここでの人脈を派遣元に戻ってからも大切にしていきたいと思えます。

氏 名：天笠 雅章

派遣元：東京消防庁

派遣期間：H31.4.1～R3.3.31

所 属：調査・企画担当

在任中は火山対策担当として、富士山噴火をモデルケースとした広域降灰対策について検討するため、各省庁を始め、電力会社や鉄道各社、大規模小売業等に対しヒアリングを行い、降灰時の社会的な影響について幅広い知識を得ることができました。

また、自治体と協働して火山周辺施設の避難確保計画の作成支援を行うため、有珠山や岩手山、普賢岳や口永良部島等の火山地域を訪れることができ、改めて日本は世界有数の火山国であり、必然的に地震や津波が発生する災害リスクの高い国であることを実感させられました。今後は、内閣府で学んだ経験を活かし、市民が安心して暮らせる安全な街を創っていけるようにさまざまな対策を考えていきたいと思えます。

氏 名：北野 智広

派遣元：(株) NTT ドコモ

派遣期間：R2.7.1～R3.3.31

所 属：防災計画担当

防災計画担当として、AI 等を活用した新たな技術を防災に活かす取組を検討させて頂きました。ベンチャー企業様や自治体様に話を聞きながら、災害対応団体(自治体等)のニーズと新規技術のマッチングが可能となる場の提供を目指して防災×テクノロジー官民連携プラットフォーム事業の検討を進めました。

民間企業からの出向となり業務に慣れず戸惑いの連続でしたが、各省庁が想像以上にスピード感を持って事業を進めていることを知ることができ、大変貴重な経験となりました。また、災害対応のための現地派遣も経験させて頂き、国や自治体が災害に合わせて柔軟かつ迅速に活動していることが実感できました。

今後は内閣府で学んだ知識・経験を活かし、指定公共機関としての役割を意識して業務に取り組みたいと思えます。

氏 名：佐藤 良太

派遣元：防災科学技術研究所

派遣期間：H30.10.1～R3.3.31

所 属：防災計画担当

平成30年10月から令和3年3月まで、防災計画担当でお世話になりました。平常時業務では、令和元年度より本格運用が開始された災害時情報集約支援チームISUTの立ち上げから運用までを担当したほか、内閣府総合防災情報システムや政府業務継続計画について関わらせていただきました。プロジェクトの立ち上げから運用までの一連について関わったことは、大変貴重な経験になりました。内閣府防災のOJT研修は、国での仕事の進め方を把握できるほか、内閣府防災主催の防災職員向け研修を優先受講できることや、各自治体や指定公共機関などから出向している方々と横のつながりを作れる仕組みがあり、充実した2年半を過ごすことができました。防災科研に戻ってからは、内閣府で得た経験や繋がりを生かして、ISUTをはじめとした災害情報利活用の実践及び研究活動を引き続き進めたいと思います。

氏 名：脇田 知茂

派遣元：広島県 広島市

派遣期間：R2.4.1～R3.3.31

所 属：普及啓発・連携担当

私は、普及啓発・連携担当の一員として、主に防災推進国民大会、防災ポスターコンクール等の一般から専門家まで多くの方々が参加するイベントの開催を担当しました。

担当したイベントのほとんどが、コロナ禍によりこれまでとは違うオンラインでの開催となりましたが、前例がない中、国レベルの大規模なイベントを新たに作り上げていく業務を職場の皆さんと協力しながら遂行できたことは非常によい経験となり、自信を得ることができました。

また、イベント等を通じて、国が取り組む防災の施策や様々な団体の活動等について知ることができ、内外を通じて多くの方々と知り合うこともできました。

この1年間で学んだ経験や人脈を市役所に戻っても役立てていきたいと思えます。

氏 名：横田 大輔

派遣元：イオン（株）

派遣期間：R2.4.1～R3.3.31

所 属：普及啓発・連携担当

内閣府防災の普及啓発・連携業務を通して、私自身はじめて防災に関わる仕事に関わりました。業務を通して、以下の3点について学びを得ることが出来ました。

一つ目は、国民の防災意識の向上に向けた国民運動に向けた業務を通して、自分自身の災害に対する認識と防災意識が高まりました。今後、防災・減災活動の大切さを派遣元で普及させていきたいと思えます。

二つ目に、災害発生時のイオンへ要請をする緊急支援物資の依頼方法について、能率的に実施できる方法を学ぶことができました。

最後に、内閣府防災業務を通して、ご縁をいただいた内閣府防災幹部やメンバーの方々、有識者の先生、中間支援団体組織の皆様など、人的なネットワークを構築できました。内閣府で得た人脈は、今後も大切にしたいと思えます。一年、貴重な業務経験を積ませていただきました、誠にありがとうございました。

氏 名：山元 淳

派遣元：大阪府 大東市

派遣期間：R2.4.1～R3.3.31

所 属：普及啓発・連携担当

一年間の研修の場を与えていただき、ありがとうございました。国での様々な貴重な経験をさせていただき、しっかり派遣元で活かせるよう業務に取り組みたいと思えます。

ただ、国から都道府県、都道府県から市町村に制度や業務の連絡等が下りても、結果的に、その理念や魂の部分が末端の市町村にきちんと伝わっていないように思う事が度々ありました。

派遣元に帰還しても、事務連絡ひとつにしても、国はどんな思いで発出したのか、しっかり汲み取れるよう意識したいと思えます。

OJTにあたり、影で支えていただいた地方訓練担当の皆様、厳しく、温かく受け入れていただいた内閣府防災の皆様。そして、教育いただいた普及啓発・連携担当の皆様、ありがとうございました。

氏 名：瀧澤 太郎

派遣元：神奈川県 大和市

派遣期間：R2.4.1～R3.3.31

所 属：事業継続担当

私は事業継続担当で、総合防災情報システム、首都直下BU業務を担当しました。

業務内容は津波DISの範囲拡張業務の一部やG空間関連のとりまとめ、立川における政府BCPとしての非常時通信手段の整備などを主に行いました。また業務の中で、都道府県への物資の備蓄確認や物資支援システム訓練、さらに災対法改正補助や国会答弁セット作業、関係団体の大臣挨拶ロジなど、国の業務の一部を経験できたことはとても貴重でした。

令和2年7月豪雨では、7月6日～12日まで現地の熊本で物資の調達業務を行い、県や市、関係省庁や内閣府本部と調整をしながら物資支援に従事しました。

内閣府で出会った人との関係を大切に、市に戻っても防災業務で貢献できるようにしたいです。

氏 名：倉澤 慈人

派遣元：千葉県 流山市

派遣期間：R2.4.1～R3.3.31

所 属：事業継続担当

当研修で、実際に着任した業務は、物資供給のスキームや物資調達・輸送調整等支援システム等、さらには、経済3団体や金融機関などの関係団体を募り、防災経済に関する勉強会を実施するための事務局であり、これまで所属で深く関わっていなかった分野として、幅広く学ぶことができました。

また、令和2年7月豪雨では熊本県に派遣され、県や市、関係省庁と連携して物資供給支援の調整を行いました。

これらの経験を基に、所属に戻ってからは、他の職員への情報提供はもちろんのこと、平素からの市民への防災普及活動や災害時の被災者への迅速な供給支援が実施できるような取組を実践し、防災に関する視野を常に広げて、個人が得た知識を組織や地域の知識として構築できるよう活動していきたいです。

氏 名：加覧 武志

派遣元：東京ガス（株）

派遣期間：R2.4.1～R3.3.31

所 属：事業継続担当

事業継続担当として、企業BCPに関する施策の推進や、防災分野におけるデジタル化に関する業務、また担当室内の総括として、国会対応などに携わりました。特に企業BCPやデジタルについては、検討会の事務局を経験でき、そこでお伺いした有識者の貴重なご意見は、出向元でもフィードバックして活かしていきたいと思います。

また国会対応など突発的な仕事が多く、常にスピードを求められる環境で、対応力や調整力を学びました。なにより、内閣府の方々の「国民の命を救うために仕事をする」という姿勢は、インフラ企業としても見習うべきマインドだと感じました。

今年度はコロナ禍により、コミュニケーションに制約があったので、今後も継続して、得られた人脈をさらに広げていきたいと思っています。

氏 名：秋吉 優貴

派遣元：熊本県 熊本市

派遣期間：R2.4.1～R3.3.31

所 属：避難生活担当

令和2年4月に着任してからは、特に、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点が重要とされており、感染対策を踏まえた避難所の環境改善について、実務を担いながら、学ばせていただきました。

避難所における新型コロナウイルスの感染拡大防止のために、内閣府においては、関係省庁と連携し、様々な検討をして、自治体のために尽力していただいていることを感じることができました。

市役所では経験できない多くのことを学ばせていただきましたので、この経験を活かし、地元の防災に尽力してまいりたいと思っています。

氏 名：園田 大介

派遣元：神奈川県 横浜市

派遣期間：H31.4.1～R3.3.31

所 属：避難生活担当

発災後に、迅速、確実に被災者支援を行うためには、被災者台帳を作成し、被災者一人一人の状況を正確に把握することが重要です。私は、内閣府防災において、被災者台帳の作成のための自治体への助言や実態調査、被災者台帳に係るシステムの構築等に取り組みました。また、政府全体のデジタル化の流れの中で、被災者支援手続について、マイナンバーカードを使って電子申請が行えるよう、ガイドラインを作成し、周知を図りました。

このような中で、平時からの準備をきちんと行うこと、発災後の対応を整理しておくことの重要性を改めて学びました。また、災害対応業務を行う職員の負担軽減を図るため、防災分野、特に被災者支援分野において積極的にデジタル化に取り組む必要があると実感しました。

国での日々は、自治体とは環境も大きく異なり、戸惑うこともありましたが、日本の中枢である霞が関で様々なものに触れる機会を得られたことは、今後の財産になるものと思っています。

氏 名：伊藤 翼

派遣元：千葉県

派遣期間：R2.4.1～R3.3.31

所 属：復旧・復興担当

復旧・復興担当にて主に激甚災害法に基づく激甚災害の指定に関する事務等を担当させていただきました。

令和2年7月豪雨発災時には、早期の激甚災害指定を求められ、法令に関する多数の問い合わせに対応することも多く、防災行政全般に係る知識のみならず、法令を正確に理解し、運用するという公務員の仕事の基本の部分も学ぶことができました。

また、大臣の被災地視察への同行や各種研修の受講等様々な角度から防災行政への知見を深める機会をいただきました。

研修を通じ、国の組織としての動きの速さ、練度の高さ等を肌身にしみて感じました。この経験を本県の防災行政にも生かしてまいりたいと思います。